六仙公園における地域と調和した公園整備について

１．はじめに

六仙公園は、東久留米市の中央に位置する、計画面積 15ha の都市計画公園である（図―１）。周囲には豊富な湧水を保つ南沢緑地保全地域（写真―１）や向山緑地公園があり、公園と連続して市街地の中の貴重なオープンスペースとなっている。

平成１０年に決定された整備計画では「水の森の創造～湧水をまもり、緑をあるく～」が全体テーマとなっており、水と緑の保全・創出による地域の快適な生活空間と個性のある地域文化の創造を目指し、現在まで約 6.8ha を開園している。本稿では、そうした地域性を活かした公園整備の工夫について、紹介する。

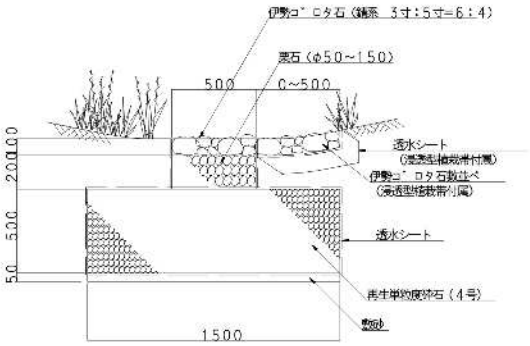
図－１　案内図

写真－１　南沢緑地保全地域

２．園地整備における工夫

２．１　浸透型植栽

六仙公園では、敷地内の地下浸透により雨水を処理し、南沢湧水の涵養に役立てている。これまでは浸透側溝や浸透桝を設置してきたが、今回の整備では新たな取り組みとして、浸透型植栽を設置した。浸透型植栽はバイオスウェル（緑溝）とも呼ばれ、植栽や修景石と一体となることで景観に優れるだけでなく、自然環境保全やヒートアイランド現象の緩和といった効果がある（図―２）。今後の課題としては、継続的な効果や設置・維持管理上のコストの検証が挙げられる。



図－２　断面図

２．２　施設デザイン

六仙公園の特色は武蔵野の自然豊かな風景にあるため、導入する施設も風景に調和するよう、一般的な公園施設よ

り落ち着いた色のデザインとした。園名板（写真―２）や照明灯を黒色で統一し、自然風景を阻害しないよう、工夫している。

写真－２　園名板

３．管理所整備における課題・工夫

六仙公園には管理拠点となる施設がなく、野川公園管理所において管理業務を行っていた。そのため、今後の公園エリア拡大に伴い、利用者サービスの向上や良質な公園を維持するため、新たに管理所を整備した（写真－３）。

３．１　近隣住宅地への配慮

六仙公園は、都市計画法の用途地域として第一種低層住居専用地域に位置し、近隣住宅地への十分な配慮が求められた。配置計画では、近隣住居から施設の離隔を５m確保しつつ管理車両動線に配慮するため敷地北東に計画した。平面計画では、必要最小限の延床面積に管理所機能を集約しつつ、室内空間を確保するため、鉄骨柱と内壁の納まりを柱芯ではなく柱面に合わせることで、室内有効面積を確保した。屋根材は近隣住居への日射反射を抑えるJIS 規格のカラー鋼板を採用し、色彩は艶消しブラックとした。

写真－３　新管理所

３．２　利用者サービスの向上

利用者の使用できる施設として、おむつ替えシートや調乳用温水器を備えた授乳室（写真－４）、ユニバーサルシートのある車いす使用者用便所を整備した。運用開始後は、乳幼児連れの利用者様やご年配の方まで良い評判を頂いており、このような設備の数を増やしてほしいとのご意見もあった。エントランスは気軽に立ち寄りやすいように約 4.3m幅のオープンなカウンター確保した。内装には多摩産材を採用することで、木の風合いが感じられる意匠とした（写真－５）。また利用者への情報提供設備として、災害時にも利用できるデジタルサイネージを設置している。

写真－４　授乳室

４．おわりに

六仙公園は令和６年度現在、都市計画面積の半分以上が未開園地であることから、これからも新規開園に向けた園地整備を進めていく。将来計画では、整備計画の考え方に基づき、修景池やエントランスゾーンの整備を予定している。公園整備前の原風景や地域の特徴を大事にしつつも、今回整備したグリーンインフラやユニバーサルデザインに配慮した管理所施設のように、時代のニーズに対応した魅力ある公園づくりをこれからも続けていきたい。

写真－５　エントランス